



国土交通省と交渉し

河川区域内の住民を救え

答弁 継続して要望を行っていく

があるため、台風19号の被害に絡め、被災家屋の移転も視野に入れ国と協議していただきたい。

議員 菅生調整池における溢流堤内の計画水量、上限水量及び浸水被害宅の位置関係について伺う。

都市建設部長

国土交通省に確認をした結果、菅生調整池の治水容量は2700万立方メートルで、計画高水位はYP+13・3m。今回の調整池内水位は、YP+13・28mという状況であった。

議員

ここは水が入る部分のため、河川区域という認識でよろしいか。

都市建設部参事

基本的に河川区域になっている。

議員

黄金地区の守谷側は河川区域内であり、昭和34年の台風被害を受け国に要望書を提出し、国の補償で移転した経緯がある。このとき、今回の台風19号による被災地区も一緒に要望をしたが、対象区域外と断られた過去

小林 剛 議員



事故を招きかねない信号の改善を!

答弁 警察や公安委員会へ申し入れをしていきたい

自転車に乗車したまま斜めに走行する交通違反者も多数目撃している。担当課職員は立哨を行ったか。

生活環境課長

現場での立哨を行い、現状は把握している。

議員

小・中学校及び高等学校の通路でもあり、通行を迷う歩行者専用現示方式信号はスクランブル式信号に変更すべきと考え、市長の考えは。

市長

小学校PTAからの要望が多い交差点であり、決定権を持つ公安委員会に調査依頼するなど、利便性と安全性の両面を担保できるように、警察や公安委員会へ申し入れをしていきたい。

議員

地元から要望活動の声も出ており、住民が動くまでもなく検討をお願いしたい。交通安全協会及び交通安全母の会は現状を把握しており、改善に向けた要望を強くお願いする。

議員

プラザ通りと旧国道294号線の交差点に設置された歩行者専用現示方式信号について、設置の経緯を尋ねる。

生活環境課長

横断者と車の接触事故が懸念されるため、車を全停止させ、その間に歩行者を渡らせることが可能な歩行者専用現示方式信号を採用した。

議員

歩行者専用現示方式信号の利便性上の問題はどうか。

産業振興部長

歩行者専用現示方式信号を設置している交差点では、歩行者の道路交通法の認識不足等により、斜め横断を誘発する危険性がある。また、斜め横断が困難な歩行速度の遅い高齢者等は、渡りきれずに残存歩行者となる恐れがある。

議員

現場での交通立哨時、歩行者の約3割が斜め横断をしており、

中村 博美 議員